公益財団法人 国際通貨研究所
Institute for International Monetary Affairs
メールマガジン

2022 年 4 月 1 日

通貨「フリヴニャ」にみるウクライナ史の光と影

公益財団法人　国際通貨研究所
専務理事　藤末　浩昭

2022 年 2 月 24 日、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった。剥き出しの暴力が彼の地を覆い尽くしている。侵攻直後に、祖国に戻って武器を取って戦うという在外ウクライナ人が BBC のインタビューに答えて、「史上最も多くのウクライナ人を殺戮したドイツは直ちにロシア銀行の SWIFT 排除を支持すべき」と言うのを聞き、ウクライナの歴史に無知な自分に思い至った。本稿では、通貨はその国の歴史・文化と不可分であることから、ウクライナの通貨「フリヴニャ」紙幣[1]を軸に、その歴史を俯瞰してみたい[2]。

紀元前 4 世紀頃、騎馬民族スキタイ人が高度な文明を持つ国家をウクライナの地に作ったことが、ヘロドトスの「歴史」に詳述されている。スキタイ人は、紀元前 5 世紀にペルシア王ダリウスの遠征軍を撤退・焦土作戦で撃退して勇名を馳せた。スキタイ人の滅亡後、フン族の侵入、東ローマ帝国の支配を経て、9 世紀に北欧から進出してきたヴァイキングが、キエフを首都とするキエフ・ルーシ公国を作った。今日の「ロシア」の語源はこのルーシといわれる。

図 1

図 1 のフリヴニャ紙幣に描かれているヴォロディミール聖公は、10 世紀にキエフ・ルーシ大公として欧州最大の版図まで領土を拡大、988 年にキリスト教を国教とし、ビザンツ皇女と結婚してビザンチン文化を取り入れた。

図 2

その息子のヤロスラフ賢公は、内政外交に注力し公国の黄金期を作った。図 2 のフリヴニャ紙幣に描かれている。娘たちはハンガリー、ノルウェー、フランスの王妃となり、息子たちはポーランド王の娘、ビザンツ皇女と結婚するなど、婚姻関係を通じて欧州で強大な影響力を持ち、キエフにソフィア聖堂を建立して全公国正教の中心とした。

---

[1] 本稿の通貨イメージはウクライナ国立銀行の HP に掲載されているものを使用。
[2] 参考図書：「物語　ウクライナの歴史」黒川祐次　中公新書　2002 年

ちなみに「フリヴニャ」とは、キエフ・ルーシ公国の通貨として使われた銀塊が起源である。現在のロシア通貨「ルーブル」は、フリヴニャを切り分けた銀塊の単位として13 世紀に現れたものといわれている。

1240 年にモンゴルがキエフを占領、キエフ・ルーシ王国は解体され[3]、14～17 世紀に北東のモスクワ大公国、西のポーランド王国、北のリトアニア大公国に分割された。1569 年にポーランドがリトアニアを併合してウクライナ全域を支配下におくが、頻繁に侵入するモスクワ大公国、オスマン・トルコ、クリミア汗国タタールに対抗して、ポーランド王のもとドニエプル川両岸に武装勢力コサック（トルコ語で「自由の民」）が台頭する。コサックは全体会議ラーダ[4]で首長を選出する等、平等でフラットな集団であった。

図 3

図 3 のフリヴニャ紙幣に描かれているのは、17 世紀にコサック国家を建国し、ウクライナ史の英雄といわれるボフダン・フメリニツキーである。コサック領主であった彼は、50 歳を過ぎて自分の領地をポーランド貴族に簒奪されたため、1648 年にコサックを糾合しポーランドに対して決起した。ワルシャワ近郊まで攻め込んだ後、和解してコサックによるウクライナ国家を作った。後に彼がモスクワ大公国と締結した同盟は、独立を守るために試みた多くの同盟関係の一つに過ぎない一方、ロシアではウクライナ併合の嚆矢となった画期的協定とされている。

図 4

図 4 のフリヴニャ紙幣に描かれているイヴァン・マゼッパは、キエフ近郊の領主の息子に生まれ、ポーランド王やモスクワのピョートル 1 世に仕え、コサック首長としてウクライナの自治拡大を目指した。スウェーデンと同盟を結び、ウクライナに苛烈であったピョートル 1 世と戦うが、1709 年中部ポルタヴァの大会戦に敗れてしまう。彼はウクライナでは悲劇の愛国者、ロシアでは裏切り者とされる。

1775 年にロシアのエカテリーナ 2 世はコサックの自治を廃止し、露土戦争で得た黒海沿岸地域の開発に着手、1783 年にクリミア半島を領有してドニエプル河左岸の東ウクライナをロシア帝国に併合した。1795 年にポーランドがロシア・プロイセン・オーストリアに分割され、第一次世界大戦までの約 120 年間、ウクライナの太宗がロシアに、西の一部がオーストリアに入り、ウクライナ国家は消滅する。

[3] キエフ・ルーシ公国の正当な後継者はロシアかウクライナかという問題は、今日に至るまで両国間で見解の相違があるようである。
[4] 現在のウクライナ最高議会の名称でもある。

図 5

図 5 のフリヴニャ紙幣に描かれているのは、ロシア帝国下のウクライナ・ナショナリズムの象徴で詩人・画家のタラス・シェフチェンコ（1814～1861）である。キエフ近郊の農奴の息子として生まれ、農民口語と古代スラヴ語から洗練された近代ウクライナ語を創造し、ウクライナへの愛情や隷従からの解放を謳う作品を遺した。1847 年に農奴制に反対する団体の一員として逮捕され、ロシア陸軍兵卒として無期従軍する極刑を受けた。10 年間従軍した後恩赦を得て、ウクライナに戻りその短い生涯を終えた。

図 6

第一次世界大戦では、ウクライナ人はロシア軍に 350 万人、オーストリア軍に 25 万人が加わり戦った。1917 年のロシア革命を機に、キエフではウクライナ人が「ウクライナ中央ラーダ」を結成し、1918 年にウクライナ独立を宣言する。図 6 のフリヴニャ紙幣に描かれているのは、このとき中央ラーダ議長からウクライナ国民共和国大統領となった歴史学者フルシェフスキーである。

ロシア革命で誕生したソ連政府はウクライナに侵攻するが、中央ラーダ政府と講和してウクライナに進駐したドイツ・オーストリアに敗退する。ドイツが第一次大戦に敗れて撤退した後、1920 年にソ連とポーランドはウクライナを分割、ウクライナは各国に蹂躙されながら結局はロシアを継いだソ連、オーストリアを継いだポーランドの支配下に戻り、大戦前とほぼ同じ状況となった。但し独立した記憶はその後の独立運動に引き継がれ、この時制定された国旗・国歌は現在も継承されている。

その後のウクライナ史はここでは省くが、1930 年代のスターリンによる強引な農業集団化がもたらした大飢饉では、推定で 4 百万人のウクライナ人が餓死したといわれる。第二次世界大戦では、対独・対ソのパルチザン活動、ソ連軍の撤退・焦土作戦、ドイツ軍による食糧・労働力の徴発、徴兵、ユダヤ人迫害、敗退・焦土作戦などに塗炭の苦しみを味わうことになり、ウクライナの戦前人口 41 百万人のうち 5～7 百万人が死亡、国富の 4 割が失われたといわれる。

ウクライナは、中央アジアと欧州をつなぐ要所・肥沃な穀倉地帯として、ロシア、ポーランド、オスマン・トルコ、フランス、ドイツなどが侵略と分割を幾度となく繰り返してきた。こうした艱難を経て育まれたナショナル・アイデンティティーは、1992 年の独立後も脈々と受け継がれているように思える。

（次ページに続く）

最後に、図 7 のフリヴニャ紙幣に描かれているのは、ウクライナのソクラテスと呼ばれる哲学者スコヴォロダ（1722～1794）である。彼が著した寓話[5]の中に「鷲の一番の才能は飛ぶことではなく、静かに地面に着くことだ」という一節がある。ロシアが才能ある鷲であるとすれば、一刻も早くウクライナ侵攻を止め、静かに地面に着くことを目指すべきである。

図 7

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2022 Institute for International Monetary Affairs（公益財団法人 国際通貨研究所）
All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.
Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan
Telephone: 81-3-3510-0882
〒103-0027　東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階
電話：03-3510-0882
e-mail: admin@iima.or.jp
URL: http://www.iima.or.jp

5 「ウクライナの心 ウクライーンカの詩劇 スコヴォロダの寓話」中澤英彦／インナ・ガジェンコ編訳 ドニエプル出版